



身体の病気と歯科との関係

骨の病気

骨粗鬆症と歯科治療③

歯科医師 東海林 克

高齢者は単に骨粗鬆症を有しているばかりではなく、様々な病気で治療していることが少なくありません。病気はそれぞれが単体であるのではなく、相互に関連している場合があります。今回は、骨粗鬆症の分類と症状、なりやすい人について話していきたいと思います。

る薬物などが原因となつて発生するものです。原因となる病気・薬剤としては、「副甲状腺機能亢進症」や「甲状腺機能亢進症」、「クッシング症候群」、「性腺機能不全」などの「内分泌疾患（ないぶんびしつかん）」、「ステロイド薬や性ホルモン薬、抗凝固薬であるワルファリン、元来は抗がん剤として使用されてきた薬剤で、現在ではリウマチの治療薬として使用されることの多いメト

トレキサート、血栓の溶解などに用いられるヘパリンといった薬剤を長期に渡って投与されたことに伴う『薬物障害（やくざいせいしようがい）』胃の手術後や神経性食欲不振症、吸収不良性症候群などによる『栄養障害（えいようしょうがい）』、麻痺や長期臥床、廃用症候群などに伴う『運動機能低下（うんどうきのうていか）』、骨形成不全症やマルファン症候群などの『先天性疾患

◆骨粗鬆症とは

◆骨粗鬆症の原因

骨粗鬆症は、①原発性骨粗鬆症と②続発性骨粗鬆症に大別されますが、大半は原発性骨粗鬆症です。

① 原発性骨粗鬆症

primary osteoporosis

遺伝的素因と加齢に生活習慣が加わることで発生するものです。これはさらに「老人性骨粗鬆症」や「閉経後骨粗鬆症」、「妊娠後骨粗鬆症」、「男性骨粗鬆症」に分類されます。中高年の女性に多い疾患とされてきましたが、最近では男性の骨粗鬆症が増加傾向にあります。

② 続発性骨粗鬆症

secondary osteoporosis

他の病気やその治療に用いられ

骨粗鬆症の進行に伴う代表的な症状と予後について

無症状の初期段階

初期においてはほとんど自覚症状はありません

軽度の骨粗鬆症の症状



立ち上がる時などに背中や腰が痛む

重いものを持つと背中や腰が痛む

背中や腰が曲がってくる

身長が縮んでくる

重度の骨粗鬆症の症状



背中や腰の激しい痛みで寝込んでしまう

転んだだけで骨折する

背中や腰の曲がりかひどくなる

身長の縮みがかなり目立つ

転倒・骨折などの治療の影響



入院など安静を要する時間が長引くことで身体機能が低下します。また、骨折の部位や度合いによっては骨折の死亡率も高まるといわれています。

QOL（生活の質）の著しい低下



身体機能が低下から、介護が必要な寝たきりや認知症につながりやすく、QOLが著しく低下します。

引用文献(4)(5)(7)より引用一部改編

骨粗鬆症のなり易さと骨折の発生の危険度

遺伝に関係するもの



閉経した女性



小柄でやせ型



家族に
骨粗鬆症の人がいる
約1.2倍~2.3倍

生活の仕方に関係するもの



牛乳や乳製品を
あまり摂らない



タバコを吸う
アルコールを沢山飲む



日光照射不足

喫煙：約1.3~1.8倍 飲酒：約1.2~1.7倍

病気に関係するもの



糖尿病や甲状腺などの
病気に罹っている



ステロイド薬を
服用している
1日5mg以上で 約2~4倍

上図赤字は骨折発生の危険度

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011年度版 より引用改編

◆骨粗鬆症の症状
骨粗鬆症は、「サイレントディージーズ(静かな病気)」と言われます。(せんでんせいしつかん)などがあります。さらに糖尿病や関節リウマチ、アルコール依存症、慢性腎臓病、間質性肺炎などの肺疾患、癌患者さんにも発生しやすいので要注意です。

◆骨粗鬆症になりやすい人
年をとっていくことにつれて、だれでも骨の量は減ってきます。しかし、みんなが同じように骨の量が減っていくわけではありません。減りやすいその名の通り静かに深く進攻していきます。自覚できるくらいは症状を感じるようになるのは更年期を過ぎてからといわれます(前頁図参照)。

体質や、生活のしかたが関係するといわれるので、同じ年齢・性別でも個人差が出てきます。基本的に、骨粗鬆症は女性に多くみられる病気で、女性のほうが成長過程で作られる骨が細いうえに、閉経に伴って骨をつくるも上で重要や役割を担っている女性ホルモンの分泌が減ることがあげられます。卵巣などの手術で人工的に閉経になっても同じです。このほかにも以下のような

骨粗鬆症の危険因子があります。

- (1) 遺伝に関係するもの
- (2) 生活の仕方に関係するもの
- (3) 病気に関係するもの

遺伝に関係するものや、病気に関係するものに関しては避けることができないものがありますが、生活に関係するものを中心として避けることができるものに関しては普段の生活から気を付ける必要があります(詳細左図参照)。



《引用文献》

- (1) 医療法人 東永内科リウマチ科 ホームページ
- (2) 多原 哲治 たはら整形外科 骨粗鬆症について ホームページ
- (3) 公益財団法人 骨粗鬆症財団 ホームページ
- (4) ㈱ 武田薬品工業株式会社 ホームページ
- (5) 静岡県 静岡市 葵区 内科 消化器内科 リハビリテーション科 往診 在宅診療 八木医院 ホームページ
- (6) おとまる健康ニュース 2014年7月25日 第108回 らくわ健康教室「骨粗しょう症について知ろう!」いつまでも背筋を伸ばして歩くために」 ホームページ
- (7) 公益財団法人 骨粗鬆症財団 (2010/05/28) ホームページ
- (9) 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011年度版 ホームページ
- (10) 高橋医院 骨粗鬆症・サルコペニア ホームページ
- (11) いがみ整骨院 長生館のブログ ホームページ